

電気通信事業分野における競争状況の評価 2005 年度評価結果（案）ポイント

(1) 固定電話市場

- ・ 固定電話（加入部分）と、NTT 加入電話に係る部分市場の中継電話及び 050-IP 電話に分けて競争状況を分析し、市場支配力の「存在」と「行使」の有無を評価。

① 固定電話（加入部分）

- ・ NTT 東西が市場支配力を行使しうる地位にある。

【主な理由】NTT 東西が不可欠設備を保有し、回線ベースでほぼ 100%、サービスベースで 94.1%のシェアを維持。

- ・ NTT 東西による市場支配力が行使される可能性は高くないが、これを梃子として隣接市場へ影響を及ぼす懸念あり。

【主な理由】第一種指定設備に基づく規制が市場支配力の行使を抑止。直収電話や 0ABJ-IP 電話との競争圧力も徐々に顕在化。ただし、固定電話における市場支配力を梃子とした隣接市場（ブロードバンド、移動体通信等）への影響が、市場の融合の進展に伴い実現しやすくなることに注意。

② 中継電話（通話部分）

- ・ NTT 東西又は NTT コミュニケーションズ は単独で市場支配力を行使しうる地位にある（国際通話を除く）。

【主な理由】NTT 東西のシェアは市内で 75.0%、県内市外で 70.1%、NTT コミュニケーションズのシェアは県外で 75.9%。マライン等の未登録者は、市内・県内市外は NTT 東西、県外は NTT コミュニケーションズ に登録したのと同等の扱い。

- ・ NTT 東西又は NTT コミュニケーションズ による支配力が行使される可能性は低い。

【主な理由】識別番号での事業者選択も一部可。近年は 050-IP 電話やソフトフォンも競争圧力として顕在化。

③ 050-IP 電話（通話部分）

- ・ 単独で市場支配力を有する事業者は存在しないが、複数の事業者が協調して市場支配力を行使しうる可能性がある。

【主な理由】上位 3 社シェアは 84.2%に達し、市場集中度が高い。同質的なサービス。

- ・ 市場支配力が行使される可能性は低い。

【主な理由】インターネット接続の付加サービスで割安な通話を実現。加入者間無料等の割引料金が定着。

(2) 固定電話市場の隣接市場との相互関係

- ・ 固定電話市場とインターネット接続市場での事業者選好には、一定の相関が存在する傾向。
- ・ 固定電話市場と移動体通信市場での事業者選好にも、一定の相関が存在する傾向。
- ・ 固定電話市場における NTT 東西のシェアが圧倒的なため、将来互いに融合していくことが想定される固定電話、インターネット接続、移動体通信の各市場の相互関係を注視し、固定電話市場における市場支配力の梃子による隣接市場への利用を注視する必要あり。

(3) FTTH へのマイグレーションに関する分析

- ・ FTTH の純増数が急増し、FTTH への移行（マイグレーション）が本格化。特に ADSL（NTT シェア 4 割）から FTTH（NTT シェア 6 割）への移行が顕著。
- ・ NTT 東西のインターネット利用者（ADSL、ISDN 等）の 7~8 割近くが NTT 東西の FTTH へ移行する傾向があり、さらに、NTT 東西以外のインターネット利用者も 5 割近くが NTT 東西の FTTH への移行する傾向あり。FTTH へのマイグレーションが NTT 東西のシェアを押し上げる構造的な要因となっている可能性大。

(4) その他

- ・ 過去 2 年に評価を行った「インターネット接続」、「移動体通信」、「法人向けネットワークサービス」の各領域について、定点観測的に、市場規模、事業者数、料金、シェア等の分析を行っている。